

ぼうさい通信 Vol.101



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和8年9月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマ 大規模地震

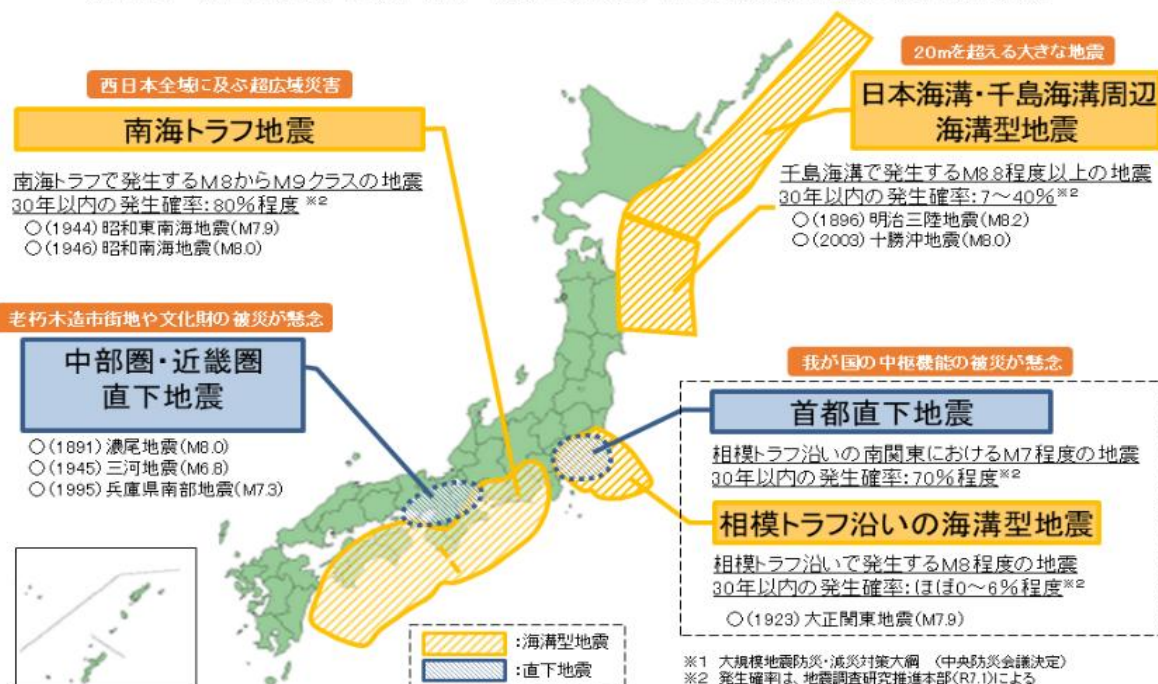
7月28日(火)午後4時27分に熊本地震が発生しました。突然の地震により現在も数多くの方々が避難生活を強いられていることに心を痛めています。地震後、生徒の皆さんにおかれましては体調いかがでしょうか。昨今日本ではいつ、どこで大きな地震が来てもおかしくなく、私たちにはさらなる防災意識、防災対策を高めるよう求められるはずです。

さて、話題は変わりますが、みなさん「防災の日」がいつか知っていますか。大正12年(1923年)9月1日に発生した関東大震災を教訓として、一人一人が防災対策の重要性を国民に理解してもらうために、この日が制定されました。これに伴い9月が「防災月間」、8月30日～9月5日が「防災週間」という位置づけになりました。関東大震災は死者・行方不明者10万5千余人という大惨事でした。日本は地震大国である以上、今後も巨大地震が発生する確率が高く、中央防災会議では今後4つの大規模地震が発生すると紹介しています。皆さんがこの記事を読んで防災意識、防災対策がさらに高まるきっかけになれば幸いです。

※発生予測確率は地震調査研究推進本部によるもの(令和7年1月時点)

中央防災会議が対象としている大規模地震

発生確率・切迫性が高い、経済・社会への影響が大きいなどの観点から対象とする地震を選定※1



※1 大規模地震防災・減災対策大綱(中央防災会議決定)
※2 発生確率は、地震調査研究推進本部(R7.1)による

※参考 我が国の主な活断層



首都直下地震の被害想定区域

【首都直下地震緊急対策区域を含む都県】

茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡

	死者数	全壊焼失棟数
南海トラフ巨大地震	約29.8万人※1	約約235.0万棟※2 (東日本大震災の約19倍)
首都直下地震	約2.3万人※2	約61万棟※2 (東日本大震災の約5倍)
(参考) 東日本大震災	19,782人※3 (災害関連死含む)	122,053棟※3

※南海トラフ地震は令和7年3月時点、首都直下地震は平成25年12月時点のもの

最後に、平成28年4月に発生した熊本地震は、当初布田川断層帯のM7.0級の地震発生確率は30年に1%未満でした。国内には分かっているだけでも約2000もの活断層があり、日本はいつどこで巨大地震が発生してもおかしくありません。特に首都直下地震や南海トラフ地震が起こると首都機能が麻痺し、人口が減少し、日本経済も衰退すると想定されています。地震は他人事では済まされないということをみなさんには改めてしっかり受け止めてもらい、防災に努めてほしいと思います。【文責 定時制防災担当】

過去のぼうさい通信を見ることができます ◎ぼうさい通信(毎月16日発行)

本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>

くまもとマイタイムライン(デジタル版マイタイムライン)は、

<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。